

放射線群書類従（第4回）

放射線安全取扱部会広報専門委員会

1. はじめに

放射線に関する書籍を様々な視点から分類しようと企画した放射線群書類従は、広報専門委員にとっても良い刺激を与えてくれている。きっかけがなければ読みそうにない書籍を手にとって、とにかく読んでいます。特に原子力事故後に発刊された反原発の立場を明確にして書かれている出版物の内容は興味深い。それらの中には呆れるようなロジックを展開しているものもあれば、大いに共感できるものもある。また、多くの書籍に間違っている内容が散見されることにも気付いた。つまり、本屋さんで自分の知識を高めてくれるだろう1冊を購入して読んでみても、それで目的を達成できるかどうかは分からない。インターネットなどの情報と違い、書籍はある程度の校閲を受けているので根本的な間違いは少ないが、首をかしげたくなるものがあるのは確かだ。ある程度の知識を持っている専門家なら誤りに気付く苦笑しながら読み進めていくことができるが、震災後に関心を持った読者は、間違っているかもしれないなどという先入観を持たないため、そのまま知識として吸収され思想や行動に反映されるのであろう。やはり、書評という形であってもレビューされるべきなのかもしれない。広報専門委員が読破した関連書籍を是非ご一読いただき、様々なコ

メントをお寄せいただければと思う。

2. 評価方法及び寸評

主任者がどのような目的で書籍を探しているかの視点に立って、以下の5項目について評価する。

- ① 専門家向け：放射線取扱主任者等の専門知識を持った方々に向いている内容
- ② 一般向け：一般の方々が読んでも理解可能な内容
- ③ 科学的：内容に科学的な裏付けがある
- ④ 放射線影響：放射線の人体影響についての話題がある
- ⑤ 教育訓練：放射線業務従事者の教育訓練資料として使用可能な内容

評価は4段階で示した。なお、評価自体は広報専門委員の主観である。

- ◎：非常に多い、または、とても向いている
- ：多い、または、向いている
- △：ある、または、多少触れている
- ：ない、または、評価対象外

企画の趣旨を踏まえて忌憚無く意見を述べさせていただくことをご容赦いただきたい。また、書籍の内容全体が分かるように、2~3行の寸評を記載する。こちらも評価と同様に専門委員の主観である。

主任者 コーナー

「植物が語る放射線の表と裏」 著者：鶴飼保雄 培風館 2007年7月1日初版

四六判・249頁・3,360円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	◎	◎	◎

寸評：放射線の発見から利用の歴史，放射線の影響について農学研究者の目から見た概説書。植物（作物）の視点から書かれた章も多いが，放射線研究・利用に関わる研究者たちがどのように研究・利用を進めていったのかが記述されていて，興味深い。（M.M.）

「身近な放射線の知識」 著者：佐々木康人 丸善 2006年3月30日初版

四六判・157頁・1,365円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	◎	○	△	○

寸評：放射線の基礎から利用まで網羅的に解説している教科書的な本。主任者にとってはおさらいとなる。途中にあるコラムに含蓄があって面白い。（Y.Y.）

『『安全』のためのリスク学入門』 著者：菅原努 昭和堂 2005年7月1日初版

四六判・220頁・1,680円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	○	○	△

寸評：日本の放射線基礎医学・生物学をリードしてこられた菅原先生の，数多い守備範囲の1つ“リスク学”についての大変分かりやすい著作。「安全を保つためには一定のリスクは常に存在すると肝に銘じておく。つまり安心してしまわないことが最も大切になります」。確認できるはずのない100%安全を確認するという作業がいまだに続いているこの国は，原発事故後も何も変わっていないのかもしれない。（N.M.）

「図説 基礎からわかる被曝医療ガイド」 監修：鈴木元 日経メディカル 2011年8月29日初版

A4判・90頁・1,890円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	○	○	○	◎

寸評：被ばくに対して緊急医療機関の関係者および主任者の方には必読の1冊。シンプルで簡潔・明瞭に解説されており，図表はとても分かりやすい。一般の方々にも被ばく患者への対処を行う医療関係者の実態を知ってもらうために一読してほしい本である。（K.O.）

「放射線利用の基礎知識」 著者：東嶋和子 講談社ブルーバックス 2006年12月20日初版
新書判・224頁・987円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	○	△	○

寸評：書籍の半分を使って放射線の基礎を理解させ、残りの半分で様々な分野での放射線の利用について書かれている。食品との関係について詳細に書かれているのが特徴的である。(Y.Y.)

「IT活用で乗り越える放射能汚染」 編著：一般社団法人 行政刷新研究機構 日経BPコンサルティング 2011年10月11日初版
四六判・152頁・1,260円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	○	△	△

寸評：1 mSv を浴びることを具体的に言うと細胞核1個に各1本の飛跡が通ること？（思わず自分の知識を疑ってしまった。）外部被ばくよりも内部被ばくの方が危険？（これらを同一基準に評価するためにSvという単位があるのでは？）微細な線量も測れる良質なガイガーカウンター？（シンチレーションカウンタの方が高感度では？）などと、放射線について全く知識がない者が、間違った記述がされている参考文献をそのまま引用して書いたようにしか思えない。この本の主旨は“放射線量を正しく把握する”という提言であるが、それまで疑わしく見えてしまう。(S.H.)

「子どもたちを守るためのいちばんわかりやすい放射線対策の本」 著者：青木晃ほか マーブルトロン 2011年8月1日初版
A5判・160頁・1,050円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	—	○	△	△	—

寸評：子を持つお母さんが質問する形式の解説本。予備知識がなくても読めるよう平易に書かれているが、詳しい説明を省いたことにより誤解を生じさせる内容が見受けられる。公衆被ばく限度に医療被ばくが含まれると読み取れる記述は医療現場に混乱をもたらすのではないだろうか。(A.K.)

主任者 コーナー

「放射線と健康」 著者：館野之男 岩波新書 2001年8月20日初版

新書判・237頁・840円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	○	◎	◎	○

寸評：放射線および放射線障害の基礎を、その解明の歴史と実例を多く交えて、すなわちエビデンスに基づき解説する好著。大学レベルの教養教育の教科書として最適。（N.M.）

「世界の放射線被曝地調査」 著者：高田純 講談社ブルーバックス 2002年1月20日初版

新書判・286頁・1,029円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	○	◎	◎	○	△

寸評：広島での原爆の影響の解説から始まるが、旧ソビエト連邦のPu製造所周辺、チェルノブイリ、産業利用核爆発、米国も含めた核実験場の現地調査は旅行記としても楽しめる。緊急時の身近な放射線防護などの解説付き。（Y.U.）

「放射線防護マニュアル 安全な放射線診断・治療を求めて」 著者：草間朋子ほか 日本医事新報社
2013年4月1日第3版

A5判・184頁・3,150円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	○	◎	◎	◎

寸評：今年の4月に大きく改訂された新版が出たばかりである。医療従事者を対象に、放射線診療の基本的なことや重要なことが検査に応じて詳しく説明されている。項目ごとの文章量も長過ぎず読みやすい。業務に携わる方にとって、使い勝手が良い構成になっているといえるであろう。（A.S.）

「リスク・コミュニケーション—相互理解とよりよい意思決定をめざして」 著者：吉川肇子 福村出版
1999年6月1日初版

A5判・197頁・3,360円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	△	○	—	△

寸評：リスク・コミュニケーションに携わろうとする方には必読の著。放射線リスクを巡って専門家と非専門家との間のギャップがなぜ生まれたのか。何が問題だったのか。どうすれば相互理解に向けて信頼関係を構築していけるのか。特に、政府や自治体の担当者はこの本を読んでよく理解すべき。（H.Y.）

「悪魔の放射線Ⅰ 逆手にとって生き生き生活術」 著者：田邊裕 文芸社 2008年11月1日初版
四六判・155頁・1,365円（税込）

「悪魔の放射線Ⅱ 知らなきゃ損するビッグなお話」 著者：田邊裕 文芸社 2011年4月1日初版
四六判・213頁・1,470円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	△	◎	○	△	△
寸評：著者が一般の方々を対象とした「私たちの暮らしと放射線」の講話をまとめた形式になっていて、簡単に読める。放射線とは直接関係のない話も多く、放射線雑学としては面白い。(Y.Y.)					

「科学と人間シリーズ3 放射能拡散予測システム SPEEDI なぜ活かされなかったか」 著者：佐藤康雄 東洋書店 2013年3月1日初版

A5判・153頁・2,310円

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	○	△	△
寸評：SPEEDIが活かされなかったことについて、著者の調査を基に記載されている。すべての事実関係が本当なのかは分からないが、国や地方の縦割り行政における今後の広義の意味での放射線リスク管理のあり方について、今回の失敗の教訓を生かすための参考になり得るのではなかろうか。(K.O.)					

「本当は怖いだけじゃない 放射線の話」 著者：大舘博善 WAC 2002年6月11日初版

新書判・224頁・924円（税込）

対象	① 専門家向け	② 一般向け	③ 科学的	④ 放射線影響	⑤ 教育訓練
評価	◎	◎	○	○	○
寸評：放射線のリスクとベネフィットを客観的に紹介し、放射線とどのように付き合うべきかを一般向けに分かりやすく語った好著。平易で説得力のあるまとめ方は専門家にとっても参考になるであろう。(Y.I.)					

〔書評者一覧（50音順）〕

池本祐志, 上養義朋, 小野孝二, 川辺睦, 鈴木朗史, 桧垣正吾, 松田尚樹, 宮本昌明, 矢鋪祐司, 吉田浩子